

荻部直（東京大学）

「戦後における思想史と文学史の交錯——伊藤整を中心に——」

**【要旨】**

1950年代後半に企画された『近代日本思想史講座』全8巻（筑摩書房、1959-1961年。うち1巻は未刊）は、近代日本思想史研究にとって、実質上の出発点にあたる時期に編まれた論集である。その中心になったメンバーには、家永三郎、久野収、丸山眞男といったいわば思想史側の知識人に加えて、伊藤整、小田切秀雄、武田泰淳などの文学者が多数加わっている。いまでは驚くほどの「文学濃度」の高さである。

近代日本思想史研究の初発時にあった、この思想史と文学史との交錯は、いったいどういう意味をもっていたのか。その問題を、講座に加わったメンバーの一人である伊藤整に焦点をあてながら探してみたい。